講師のプロフィール

熊谷（くまがい）　カネ

北海道様似郡様似町生まれ。

アイヌが多く居住する岡田コタンで、熊射ちでありカムイノミの伝承者であった父・岡本総吉、歌謡や口承文芸の伝承者として活躍した母・岡本ゆみの末娘として生まれ育つ。

1965（昭和40）年に結成された北海道ウタリ協会様似支部には発足時から参加し、特に1978（昭和53）年に発足した文化保存部（様似民族文化保存会の前身）で長年アイヌ文化の伝承活動に取り組み、現在は様似民族文化保存会会長を務める。

1997（平成8）年より様似アイヌ語教室の運営に携わり、講師も務める。2002（平成14）年にはアイヌ語弁論大会で最優秀賞を受賞し、現在は審査員を務める。その他、各地で講演を行っている。

協力者の紹介

大野徹人（おおのてつひと）　様似町ウタリ生活相談員。このテキストの原稿執筆を担当。

中川裕（なかがわひろし）　千葉大学文学部教授。このテキスト作成にあたって助言。

【このテキストのアイヌ語と表記の仕方について】

このテキストでは、様似地域で話されてきたアイヌ語（様似方言）を勉強します。

このテキストの内容は、これまでの研究者・放送局による記録・研究、様似民族文化保存会・様似アイヌ語教室での調査・学習に基づいて、講師と相談しながら作ったものです。詳しいことについては32ページをご覧ください。

また、このテキストでのアイヌ語のカタカナ表記は、『アコロイタㇰ』（北海道ウタリ協会、1994）の表記にほぼ従っていますが、小さなラリルレロ（音節末子音のr）のうち、イ段の「ㇼ」以外のものは、様似方言で実際に聞かれる発音の傾向を考慮して、一つの試みとしてすべて統一的に「ㇽ」としてあります。

ローマ字表記については、アイヌ語は『アコロイタㇰ』に準じ、日本語からそのまま取り入れた言葉は社団法人日本ローマ字会の定めた表記で、英語などから日本語に入って使われている外来語はもとのローマ字の綴りで表記しています。

【様似アイヌ語教室について】

様似アイヌ語教室は、毎月第2・4金曜日に北海道ウタリ協会様似支部（様似町総合福祉センター内、東様似生活館2階）で行われています。お問い合わせは以下の連絡先にお願いします。

北海道ウタリ協会様似支部

〒058-0014　北海道様似郡様似町大通2丁目　　TEL 0146-36-5656

アイヌ語ラジオ講座のスケジュール表

月	日	Lesson	テーマ	ページ
4月	2日	1	アイヌ語の基本的な文章「～が～する」	4
	9日	2	アイヌ語の基本的な文章「～が～する」その2	6
	16日	3	過去の言い方「～が～した」	8
	23日	4	「～が～を～する」の言い方	10
	30日	5	「私の～」の言い方	12
5月	7日	6	「私の～」の言い方　その2	14
	14日	7	「私が～する」の言い方	16
	21日	8	「私が～する」の言い方　その2	18
	28日	9	「～している」の言い方	20
6月	4日	10	「ある」「いる」（動詞の単数・複数）の言い方	22
	11日	11	「AはBだ」の言い方	24
	18日	12	「～は」の言い方	26
	25日	13	「～で」の言い方	28

例　文

1　ウパシ　ル。
upas　ru.
雪　解ける　（雪が解ける。）

2　アチャポ　エㇰ。
acapo　ek.
おじさん　来る　（おじさんが来る。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アチャポ	acapo	おじさん。 ※お父さんのことは「アチャ」と言います。似ていますので注意してください。
ウパシ	upas	雪。
エㇰ	ek	来る。
ル	ru	解ける。 ※ルイベのルはこの「解ける」の意味です。「ル」にはその他、「道」などの意味もあります。

言葉の解説

アイヌ語は日本語に比較的近い言葉で、英語やその他の外国語と比べると、言葉を並べる順番の大部分は日本語と同じです。そういう意味では非常に親しみやすい言語であると言えると思います。

また、日本語の「が」にあたるアイヌ語はありません。そのため単語を並べることで比較的簡単に文章をつくることができます。

注意すべき発音

アイヌ語は、英語やその他の外国語ほど発音は難しくないと思われます。日本語の「あいうえお」の50音とほとんどの音が共通です。ただしいくつか日本語にない発音もあり、それを特殊なカタカナで表記したりします。

この課ではウパシとエㇰの２つに、日本語にない小さなカナが使われています。

「シ」はそれほど難しくないと思います。あまり意識せずに軽く発音してください。

例　チシ　cis　泣く　　コシネ　kosne　軽い　　イルシカ　iruska　怒る

なお、この小さい「シ」は「ス」という発音になることもあります。➡**ウパシ＝ウパス、イルシカ＝イルスカ**など。

「ㇰ」は少し難しいかもしれません。エㇰならば、エックとかエッキと言いかけて「ク」とか「キ」と言わずにその手前で息を止めてください。

例　アㇰ　ak　弟・弓を射る　　ホㇰ　hok　買う　　タㇰネ　takne　短い

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　クジラがあがる。（　　）（　　）。

ヤン	yan	あがる
フンペ	humpe	クジラ

2　雨が降る。（　　）（　　）。

アシ	as	降る
ルヤンペ	ruyanpe	雨

MEMO

様似とアイヌ民族　― 様似町について ―

様似町は日高管内の東部に位置し、西側に浦河町、東側にえりも町があります。

江戸時代にエンルム（アイヌ語で「岬」の意味）という岬のふもとに会所ができ、そこに和人が来て物流を行っていました。そこを中心に町が栄えた歴史がありますが、当然、もとから住んでいたのはアイヌ民族でありました。この講座でもそういった様似の風土の中で展開されたアイヌの文化や歴史について少しずつ触れたいと思います。

LESSON 2

アイヌ語の基本的な文章「〜が〜する」その2

例　文

1　タント　レラ　アシ。
tanto　rera　as.
今日　風　吹く　（今日は風が吹いている。）

2　タネ　メアン。
tane　mean.
今　寒い　（今、寒い。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アシ	as	（風が）吹く。
タネ	tane	今。
タント	tanto	今日。　※分解するとタン＝この、ト＝日、となります。
メアン	mean	寒い。
レラ	rera	風。

言葉の解説

前回は非常に単純な「〜が〜する」という形の文章を勉強しましたが、今回は少しそれを発展させて文章の頭に「今日」とか「今」など、時間に関係のある言葉を入れた形の文章を勉強します。こういった文章も日本語と言葉の順番はまったく同じです。

前回の「練習」にも出てきましたが、「アシ」にはいろいろな使い方があります。「雨が降る」「雪が降る」「風が吹く」など、自然現象の発生を表す時によく使います。また人間や樹木などが「立つ」「立っている」というような意味でも使います。

また「アシ」はここでは「吹いている」という日本語訳になっていますが、アイヌ語では文脈によって「〜する」「〜している」とどちらにも訳せることがあります。

注意すべき発音

アイヌ語を勉強する際、いくつか少々難しい発音がありますが、見落としやすいのが発音の上げ下げ（アクセント）です。

たとえば、タネは「タ」を低く、「ネ」を高く発音します。

それを分かりやすく書くと　タ　ネ　というようになります。これを
タ　ネ　と発音すると、意味は通じるかもしれませんが、不自然に聞こえます。

アイヌ語では、大まかに言いますと２番目の音（言語学的には第２音節）が高くなることが多いので気を付けてください。

例　チ セ《家》　シ タ《犬》　ポ ロ《大きい》　ヌ カル《見る》

（特に、様似方言は、言語学的に言うと一型アクセントであると言われていて、特に第２音節が高くなることが多いようです。）

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　今日は寒い。（　　）（　　）。
メアン　mean　寒い
タント　tanto　今日

2　今年は雪が多い。（　　）（　　）（　　）。
ウパシ　upas　雪
ポロ　poro　多い･大きい
タンパ　tanpa　今年

MEMO

様似とアイヌ民族　— 様似の語源 —

「様似」は「サマニ」と読むのが普通ですが、ほんの50〜60年前までは「シャマニ」と書かれたり発音されることが多く、現在もシャマニと発音するお年寄りもいます。シャマニの方が古い発音のようで、江戸時代の文献でも「シヤマニ」と書かれています。

「様似」という地名のもとのアイヌ語名についてはいろいろな説があり、はっきりしたことは分かっていません。エサマンペッ（エサマン＝かわうそ、ペッ＝川）という川の名前からきていると言う人もいますし、サマムニまたはサムンニ（倒れ木のこと）が語源であると言う人もいます。また江戸時代の文献には「シャマニ」という女性の名前が起源であるとの説も書かれています。

例題の解答　レンスウ1　1. ブンペ　ヤン　humpe yan　2. ルヤンペ　アシ　ruyanpe as

例　文

1　ヌマン　ルヤンペ　アシ。
numan　ruyanpe　as.
昨日　雨　降った　（昨日雨が降った。）

2　ウクラン　カムイフム　アシ。
ukuran　kamuyhum　as.
ゆうべ　雷　鳴った　（ゆうべ雷が鳴った。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アシ	as	（雨や雪が）降る、（風が）吹く、（音が）鳴る、聞こえる。
ウクラン	ukuran	ゆうべ、昨晩。
カムイフム	kamuyhum	雷。カムイ＝神、フム＝音。
ヌマン	numan	昨日。
ルヤンペ	ruyanpe	雨。　※雨のことは「アプト」という地方もあります。

言葉の解説

最初の例文では、「アシ」を「降った」という過去形に訳していますが、「タント　ルヤンペ　アシ」では「今日雨が降る（降っている）」という日本語訳になります。日本語では「昨日雨が降る」とは言わずに「昨日雨が降った」と「降る」のいわゆる過去形（完了形）を使って言うのが普通です。しかし、アイヌ語では「今日」でも「昨日」でも同じ「アシ」を使います。日本語の「降った」「来た」「食べた」のように、アイヌ語では特に必要のない限り過去形の言い方をしません（中国語などと同じです）。

2番目の例文でも「アシ」が使われています。レッスン2にも出てきましたが、このように音などが「鳴る」「聞こえる」という時にも使います。

注意すべき発音

カムイフムの「ム」は、はっきり「ム」と言わず、口を閉じて息を止める感じです。

例　イサム　isam　ない　　コマム　komam　落ち葉　　リムセ　rimse　踊り・踊る

また、ヌマンは　**ヌ マン**　と発音する地方も多いようですが、様似では　**ヌ マン**　と発音するのが普通のようです（一型アクセントであるため）。

その他、ルヤンペ・ウクラン・カムイフムなどのアクセントに気を付けてください。

ル ヤンペ　　ウ クラン　　カ ムイフム　のように言わず、最初の音を低く発音してください。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　昨日風が強かった。（　　）（　　）（　　）。

ヌマン	numan	昨日
レラ	rera	風
ルイ	ruy	強い・激しい

2　おととい雪が降った。（　　）（　　）（　　）。

アシ	as	降る
ウパシ	upas	雪
ホシカヌマン	hoskanuman	おととい

MEMO

様似とアイヌ民族　— 様似の風土 —

主要産業は漁業で、つぶ貝やカレイ、カジカ、サケ、タラ、その他さまざまな魚貝類がとれます（その他、山に近い地域では稲作やイチゴの栽培なども行われ、牧場もたくさんあります）。夏はコンブ漁が盛んで、早朝から浜でコンブ干す光景があちこちで見られ、夏の風物詩となっています。

江戸時代の記録を見ても、様似のアイヌたちが浜でコンブ干しに従事していたことが書かれています。

そういった風土の中で培われた様似のアイヌ文化もやはりその影響を大きく受けているようです。たとえばコンプシト（コンブで作ったタレをからめた団子）やヤマウ（コンブでダシをとり叩いた棒ダラやワカメを入れた冷たいスープ）などは、様似をはじめ日高東部地域独特のアイヌ料理のようです。

例題の解答　レッスン2　1. タント　メアン　tanto mean　2. タンパ　ウパシ　ポロ　tanpa upas poro

例　文

1　ヘカチ　イタンキ　エヤプキリ。
hekaci　itanki　eyapkir.
少年　お椀　を投げる　（少年がお椀を投げる／投げた。）

2　ウナルペ　スマ　オテルケ。
unarpe　suma　oterke.
おばさん　石　踏む　（おばさんが石を踏む／踏んだ。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
イタンキ	itanki	お椀。
ウナルペ	unarpe	おばさん。
エヤプキリ	eyapkir	〜を投げる。
オテルケ	oterke	〜を踏む。
スマ	suma	石。
ヘカチ	hekaci	少年、男の子。

言葉の解説

今まで勉強したように、アイヌ語では「が」にあたる言葉はありません。また、今回の例文のように「を」にあたる言葉も使われないことがアイヌ語ではよくあります。最初の例文で「お椀を」の「を」にあたる単語がありませんし、2番目の例文でも「石を」の「を」にあたる単語がありません。

このようにアイヌ語では、多くの場合、単語をそのまま並べるだけで文章になることが多いので比較的作文しやすいと思います。

また、レッスン3では、現在と過去の言い方に特に違いがないことを習いましたが、今回の課の例文は、現在形と過去形2通りに訳せるので2通りの訳文をつけています。

注意すべき発音

エヤプキリの「プ」と「リ」に注意してください。

「プ」は以前練習した「ク」同様、少し難しいかもしれません。プをはっきり言わず、プを言う直前に口を閉じたまま息を止めます。エヤプキリと発音してはいけません。

たとえばチプ《舟》の発音を練習してみましょう。

チップと言おうとし、プを言いかけて「チッ」の寸前で口を閉じて息を止めてください。

例　チェプ　cep　魚　　チカプ　cikap　鳥　　シネプ　sinep　1つ(数)

「リ」はあまり意識しなくてもいいですが、はっきり言わず軽く発音してください。

例　ピリカ　pirka　よい・きれい　　チキリ　cikir　足　　キキリ　kikir　虫

また、ウナルペの「ル」、オテルケの「ル」もピリカの「リ」同様、軽く発音します。

例　ケル　ker　靴　　エトル　etor　鼻汁　　テルケ　terke　跳ねる

なお、アイヌ語の小さいラリルレロは、地方によって、人によってさまざまに発音されるようです。ウナルペ、オテルケなどもそれぞれウナラペ、オテレケなどと発音されたり書かれることもよくあります(ローマ字では同じです)。

例　カル＝カラ　kar　作る　　エルムン＝エレムン　ermun　ネズミ　　コルコニ＝コロコニ　korkoni　ふき

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　おじさんが酒を買う。（　　）（　　）（　　）。

トノト	tonoto	酒
ホク	hok	買う
アチャポ	acapo	おじさん

2　犬が骨を食べる。（　　）（　　）（　　）。

ポネ	pone	骨
シタ	sita	犬
エ	e	食べる

MEMO

様似とアイヌ民族　— 親子岩 —

様似町内には面白い形の大きな岩が海の中にいくつかあり、それぞれに興味深い言い伝えがあります。

このテキストの表紙の写真は「親子岩」と呼ばれているもので、3つの大きさの違う岩が仲よく海中に並んでいます。

この岩については、昔、東の方で戦があり、村おさが負けて家族ともども逃げてきて、村おさが海の中に入って岩に姿を変えたが、追っ手の矢が当たって岩が3つに分かれてしまったという伝説が記録されています(桐田スマさん伝承、『様似町史』より)。

なおこの岩のアイヌ語名については、江戸時代に描かれた地図に「ホンレフシヘ」と書いてあり、「ポンレプシペ(ポン＝小さい、レプシペ＝海中の岩)」のことだと思われます。

一方、『様似町史』にはウンペレプンケ(ウンペは海辺(うんべ)川のことで、レプンケはおそらくもとはレプニケ、これは海中の岩のことを指すようです)と書かれており、こういう言い方もあったようです。

例題の解答　1. スマ　ヘカチ　イタンキ　エヤプキリ　2. オテルケ　ウナルペ　アチャポ　hoskanuman upas as

例　文

1　クパケ　　アルカ。
　ku=pake　arka.
　私の･頭　痛い　　（私の頭が痛い。）

2　クチキリ　タンネ。
　ku=cikiri　tanne.
　私の･足　長い　　（私の足は長い。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アルカ	arka	痛い、痛む。
ク	ku=	私の、私が。
タンネ	tanne	長い。
チキリ	cikiri	足。
パケ	pake	頭。

言葉の解説

アイヌ語で「私の～」という言い方には２つほどあります。今回はそのうちの１つを紹介します。

頭･顔･鼻･手･足など、おもに身体の部分などについて、「私の～」と言う時は、言葉の頭に「ク」という言葉をつけます。

例　クナヌ　ku=nanu　《私の顔》　　クエトゥ　ku=etu　《私の鼻》
　　クテケ　ku=teke　《私の手》　　クホニ　ku=honi《私の腹》

またここでクチキリは「私の足が」ではなく「私の足は」と訳されていますが、文脈によって「が」と訳したり「は」と訳したり訳語が変わる場合があります。

注意すべき発音

アルカ《痛い、痛む》はアラカと発音されたり書かれることが多いので覚えておいてください。

またクパケやクチキリなどは一つの言葉として切らずに発音してください。ク、パケとかク、チキリなどと区切って読まないように注意してください。

またアクセントは以下のようになるのが普通です。注意してください。

○　ク パケ　または　ク パ ケ　　×　ク パケ

○　ク テケ　または　ク テ ケ　　×　ク テケ

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　私の足が痛い。（　　）（　　）。

ク	ku=	私の
アルカ	arka	痛い
チキリ	cikiri	足

2　私のお腹はいっぱいだ。（　　）（　　）。

ホニ	honi	腹
ク	ku=	私の
シク	sik	いっぱいだ

MEMO

様似とアイヌ民族　― ソピラヌプリ（観音山）―

様似町内にある山の名前です。高さは83メートルほどでそれほど大きくありません。現在は観音山と呼ばれていますが、もとの名前はアイヌ語のソピラヌプリです。ソピラ（または濁ってソビラ）のソは滝、ピラはがけのことです。かつては山の中腹のがけに小さな滝があったそうですが現在は水が枯れてしまっているようです。現在この山の名前となっている「観音山」は、1895（明治28）年に等澍院（とうじゅいん）の僧侶・塚田純由が33体の観音像を設置したことからつけられた名前です。

この山の沖合いには、ソビラ岩と呼ばれる岩があります。これはソビラの山にちなんでつけられた名前です。レッスン４で紹介した親子岩の伝説によると、戦に破れた村おさの妻が身を隠すため子供を抱いて海に入り姿を変えたものであると言われています。

また、この山の中腹にはかつてアフンポル《あの世への入り口》があったということで、ここに入ることを戒めたと言います。仮に近くを通ってその穴を見てしまったとしても見ないふりをし、小走りに目を伏せて通るのが常だったということです。

この山の頂上の近くにカムイチャシと呼ばれる砦跡があり、現在は公園となっていて展望台もあります。ここから非常にすばらしい景色が拝めます。

例題の解答　レッスン4　1. アチャポ　トパ　ホク　acapo tonoto hok　2. シタ　ポネ　エ　sita pone e

「私の～」の言い方 その2

例　文

1　クコル　マキリ　エエン。
ku=kor　makiri　een.
私の　小刀　鋭い　（私の小刀は鋭い。）

2　クコル　ウナルペ　イルシカ。
ku=kor　unarpe　iruska.
私の　おばさん　怒る　（私のおばさんが怒った。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
イルシカ	iruska	怒る。
ウナルペ	unarpe	おばさん。
エエン	een	鋭い。
ク	ku=	私の。
コル	kor	～を持つ。　※「コロ」と発音・表記されることも多いです。
マキリ	makiri	小刀。

言葉の解説

前回「ク～」という形で「私の～」という言い方を習いましたが、今回は別の言い方を勉強します。

今回の例文では「クコル～」という言葉が使われています。「ク」は「私」の意味、「コル」は「持つ」という意味の言葉（動詞）で、自分の持ち物、所有物を表す時によく使われます。

例　クコル　サラリプ　ku=kor sararip　《私のこんだし》
クコル　シタ　ku=kor sita　《私の犬》

前回勉強したように、自分の身体の部分などについて言う時は、身体の部分の名称に「ク」をつけて「ク○○」という言い方をします。例えば、私の頭とアイヌ語で言う時に「クパケ」と言います。「クコル　パケ」という言い方はしません。

また家族・親族については、この「クコル」という言い方を使うことがよくあります。様似方言での家族の言い方についていくつかあげてみます（この言い方は地方によって違うことがままあります）。

・クコル　○○の言い方

クコル　エカシ	ku=kor	ekasi	私のおじいさん
クコル　フチ	ku=kor	huci	私のおばあさん
クコル　アチャ	ku=kor	aca	私のお父さん
クコル　ハポ	ku=kor	hapo	私のお母さん
クコル　アチャポ	ku=kor	acapo	私のおじさん
クコル　ウナルペ	ku=kor	unarpe	私のおばさん

なお、アチャとハポについては「ク」だけを付けてクアチャ、クハポという言い方もできます。

注意すべき発音

「エエン」は最初の「エ」と２番目の「エ」を区切るように発音してください。「エーン」のようにはなってはいけません。またアクセントにも注意してください。

エ エン

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　私の馬は大きい。（　　）（　　）（　　）。
ウンマ　umma　馬
クコル　ku=kor　私の
ポロ　poro　大きい

2　私の父が来た。（　　）（　　）（　　）。
クコル　ku=kor　私の
エク　ek　来る／来た
アチャ　aca　父

様似とアイヌ民族　― カムイチャシとホタフンペ ―

様似アイヌに伝わる言い伝えによると、かつて十勝からの侵略軍が日高に攻め入って激しい戦いになった時に様似アイヌはソピラヌプリ（観音山）の頂上に砦（カムイチャシ）を作りそこに立てこもったそうです（今もそのチャシの石垣の名残が残っています）。

戦いは長期戦になりなかなか勝負がつかず、ついに様似アイヌは海辺（うんべ）川を渡りそこにクジラの形をした砂山を一夜のうちに作り、そこに立てこもったということです。それに対して十勝軍は、クジラは海の王者なので弓を引くことはできないということで和解を申し込んできたために戦いは終わりました（岡本総吉さん伝承。これとは違った内容の伝説も残っています）。

その伝説を記念して、北海道ウタリ協会様似支部では、カンパを集めて1978（昭和53）年にこのカムイチャシ跡に記念碑を建てました。この石碑には「ホタフンベユーカル（砂クジラの伝説）」と彫られています。このホタフンベのホタは「砂」、フンベ（フンペ）は「クジラ」です。

北海道ウタリ協会様似支部では、このカムイチャシで毎年５月30日に「観音山カムイチャシ祭」という名前のイチャルパ（慰霊祭）を行っています。

例題の解答　1. クチキリ　アルカ　ku=cikiri arka　2. クホニ　シク　ku=honi sik

例　文

1　クシノッ。

ku=sinot

私が･遊ぶ　　（私は遊ぶ。）

2　ポロンノ　　クアプカシ。

poronno　　ku=apkas.

たくさん　　私が･歩く　　（私はたくさん歩く。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アプカシ	apkas	歩く。
ク	ku=	私が～。
シノッ	sinot	遊ぶ。
ポロンノ	poronno	たくさん

言葉の解説

日本語の場合、たとえばＡさんが「頭が痛いです」とか「昨日学校に行きました」と言う時、わざわざ「私の頭が痛いです」とか「昨日学校に私は行きました」とは言いません。

しかし、アイヌ語では何かについて表現する時、誰のことを言っているのかはっきり言わなければならないことになっています。

たとえばＡさんが「疲れた」と言う時、「疲れた」は「シンキ」なので、「シンキ」と言えばいいかというとそうもいかないのです。自分のことについて「疲れた」と言う時は「クシンキ」と言わなければなりません。

この「ク」は、今まで習った、「私の○○」と言う時の「ク」と同じもので、「人称接辞」と言います。この「ク」を決して省略しないのがアイヌ語の特徴です。

また、この「ク」は動詞と離してはいけません。２つ目の例文のクアプカシのクとアプカシは離してはいけません。例えばク　ポロンノ　アプカシとは決して言えません。

注意すべき発音

シノッの最後の小さい「ッ」に注意してください。

北海道各地の地名に「～別」というのがたくさんありますが、「川」という意味で、もとはアイヌ語のペッです。この最後の小さい「ッ」の発音が難しいので注意してください。「ペツ」と発音してはいけません。

これはペッタリとかペットなどを言いかけてタやトを言う直前の「ペッ」のところで発音を止めてください。

例　サッ　sat　乾く　　クッ　kut　帯　　アペソコッ　apesokot　いろり

この人称接辞の「ク」は、動詞と離して発音してはなりません。

ク、シノッとか、ク、オマンではなく、一つの言葉として、クシノッ、クオマンと発音してください。

例　クシニ　ku=sini　《私は休む》　クミナ　ku=mina　《私は笑う》

クモコル　ku=mokor　《私は眠る》　クエク　ku=ek　《私は来る》

またクの次の音を高く発音するので気を付けてください。

○　ク シノッ　×　ク シノッ　※ ク シ ノッ　という発音になることもあります。

例　ク オマン　ク シニ　ク ミナ　ク モコル　ク エク

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　今日私は来た。（　　）（　　）。

ク	ku=	私
タント	tanto	今日
エク	ek	来る／来た

2　昨日私は遊んだ。（　　）（　　）。

シノッ	sinot	遊ぶ
ヌマン	numan	昨日
ク	ku=	私

様似とアイヌ民族　― エンルム ―

以前書きましたが、エンルム岬のふもとに会所が作られ、和人の様似での活動の拠点となり、そこが町の開発の拠点になったと言われています。この岬は現在もエンルムと呼ばれています。このエンルムはアイヌ語で岬の意味でよく使われる言葉で、分解するとエン＝とがっている、ルム＝先端となります。襟裳岬の「えりも」、室蘭市の絵鞆（えとも）もこのエンルムが起源であると言われています。

このエンルム岬は標高約70メートルで展望台もあり、太平洋の水平線や様似の町が一望できます。このエンルムの頂上には、チャシコッ（砦跡）があり、それにまつわる伝説もいくつか残されており、インカルシ（＝インカル・ウシ＝（様子などを）見る・ところ）という見張り台として使っていた峰もあります。

なお、ネズミのことをアイヌ語でエルムンと言います（エルム・エルムなど地方によって少々違う発音になります）。音が似ているからか、襟裳岬にはネズミにまつわる伝説が残っていますし、様似のエンルムも、ネズミの形に似ているとも言われています。

例題の解答　レッスン6　1. クロル　ウンマ　ポロ　ku=kor umma poro　2. クロル　アチャ　エク　ku=kor aca ek

例　文

1　ワッカ　　ク。
wakka　　ku=ku.
水　　私が･飲む　　（私は水を飲む。）

2　ヌマン　　ハンバーガー　　クエ。
numan　　HAMBURGER　　ku=e.
昨日　　ハンバーガー　　私が･食べる
（昨日私はハンバーガーを食べました。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
エ	e	～を食べる。
ク	ku=	私が。
ク	ku	飲む。
ヌマン	numan	昨日。
ハンバーガー	HAMBURGER	ハンバーガー。　※日本語に入った外来語をそのまま使っています。
ワッカ	wakka	水。

言葉の解説

前回も説明しましたが、「ク」は「遊ぶ」「飲む」「疲れる」などの動作を表す言葉（動詞）の前に必ずつきます。たとえば「ク　トノト　ク《私はお酒を飲む》」という言い方は間違いで、「トノト　ククと言わなければなりません。
その他、いくつか実例を挙げます。

《明日私は行きます》
○ ニサッタ　クオマン。
× ク　ニサッタ　オマン。

《馬に私は乗ります》
○ ウンマ　クオ
× ク　ウンマ　オ

この「私」の意味の言葉（人称接辞）はよく使う言葉ですが、使い方が少し独特なので気を付けてください。

また、この課の例文ではハンバーガーという外来語を使いました。アイヌ語を現代生活の中で生きた形で使っていく上で、アイヌ語にない言葉をどう表現するかが問題になります。アイヌ語で造語して使っていくのも一つですし、とりあえず日本語や外国語から取り入れて使うのも一つです。現在の日本語にもバスやインターネット、ラジオなど、外国から来た言葉がたくさん入っていますがアイヌ語でも同じことが可能です。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　お金をたくさん私は持っている。（　　）（　　）（　　）。
ク　　ku=　　私が
コル　　kor　　持つ
イチェン　　icen　　お金
ポロンノ　　poronno　　たくさん

2　お湯を少し私は飲みます。（　　）（　　）（　　）。
ウセウ　　usew　　お湯
ク　　ku=　　私が
ク　　ku　　飲む
ポンノ　　ponno　　少し

様似とアイヌ民族　―プヨシュマ（冬島）―

様似東部に冬島という地域があり、港がありここも漁業が盛んです。特に冬島昆布は有名です。この冬島という地名はもともとプヨシュマだったと言われます。これは大きな穴のあいた岩のことで、分解するとプイ・オ・シュマ（スマ）puy-o-suma＝穴・のついている・石（岩）です。この岩にまつわるアイヌの伝説があり、昔、魔神を征伐するため、神がイチイの弓に蓬の矢をつがえ放ったものの、矢が外れて大岩にあたり大穴が開いてしまったとのことです（岡本総吉さん伝承）。

また、この岩については違う内容の言い伝えもあり、レッスン4で紹介した親子岩の伝説では、海の中に隠れて岩に姿を変えた母子に命中した追っ手の矢がさらに飛び続け、この冬島の岩に当たり穴があいたということになっています。

この岩の付近は現在港になっています。この岩は非常に大きく、その穴も車が通れるほどの大きさで、伝説の世界のスケールがいかに大きいかを物語っています。

なお、サマニをシャマニと言ったり、スマをシュマと言ったり、アイヌ語ではサ行の音がシャ行の音に発音されることがあります。特に古い時代はその傾向が強かったらしく、地名などにシャ行音が残っていることがよくあります。ただし、サ行でもシャ行でも意味が変ることはありません。たとえば魚のシシャモはアイヌ語が起源ですが、スサムまたはシュシャムがもとのアイヌ語でどちらも正しいのです。

例題の解答　レッスン7　1. タント　クエク　tanto ku=ek　2. ヌマン　クンノ　numan ku=sinot

例　文

1　ハポ　モンライケ　カネ　アン。
hapo　monrayke　kane　an.
お母さん　働く　しながら　いる
（お母さんが働いている。）

2　アチャ　映画　ヌカル　カネ　アン。
aca　EIGA　nukar　kane　an.
お父さん　映画　見る　しながら　いる
（お父さんが映画を見ている。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アチャ	aca	お父さん。
アン	an	いる、ある。
映画	EIGA	映画。　※日本語をそのまま使っています。
カネ	kane	〜しつつ、しながら。
ヌカル	nukar	〜を見る。　※「ヌカラ」という発音になることもあります。
ハポ	hapo	お母さん。
モンライケ	monrayke	働く。

言葉の解説

「〜している、しつつある」という意味で「〜カネ　アン」という表現が使われます。他の地方のアイヌ語では「〜コル　アン（＝コラン）」という言葉がよく使われ、様似でもこの言い方がありますが、様似方言では「〜カネ　アン」の方をよく使うようです。

また、アイヌ語で「お父さん」を指すアイヌ語は地方によってだいぶ違います。様似ではアチャと言いますが、お父さんのことをアチャと言う地方は、分かっている範囲でも、様似・浦河・三石・静内・広尾・白糠・釧路・阿寒・美幌・稚内と非常に範囲が広いです。そして、樺太のいくつかの地域でもほぼ同じ言い方をし、音を伸ばしてアーチャと発音します。

その他、ミチという言葉も各地で使われていますが、様似では「亡くなった父（亡父）」の意味で使うようで、通常はアチャを使います（アチャとミチの両方を使う地方もあるようです）。

なお、アチャを「おじさん」の意味で使う地方も多いのでご注意ください。

「お母さん」を指す言葉は北海道の多くの地域ではハポで、様似でも同じです。

注意すべき発音

よく「アイヌ語には濁音がない」と言われますが、実際のアイヌ語の発音を聞いてみると濁音がないわけではありません。様似方言でも、たとえば、ハポ《母》が、ハボと濁って発音されることもままあります。

日本語ですと「かき（柿）」と「かぎ（鍵）」は別の言葉ですが、アイヌ語では、音が濁るかどうかで意味が変ることはなく、ハポをハボと発音しても良く、どちらも正しいのです。他にもルヤンペもルヤンベという発音になることもありますし、フンペがフンベになることもあります。大まかに言いますと、特にカ行・タ行・パ行の音が濁ることが多いようです。

この発音のくせは地方によって、人によって違うようです。日本語の影響だと言う人もいますがはっきりしたことは分かりません。いずれにせよ、濁らない音（清音）で発音することが基本で、時に濁って発音されることもあるぐらいに覚えておけばいいと思われます。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　犬が泳いでいる。（　　）（　　）（　　）（　　）。

マ	ma	泳ぐ	カネ	kane	〜しつつ
シタ	sita	犬	アン	an	いる

2　おばさんが団子を作っている。（　　）（　　）（　　）（　　）（　　）。

ウナルペ	unarpe	おばさん	アン	an	いる
カネ	kane	〜しつつ	シト	sito	団子
カル	kar	作る			

様似とアイヌ民族　— アポイヌプリ（アポイ岳）—

標高810.6メートルの山で、珍しい高山植物が生息しているということで有名で、ここの高山植物群落は国の特別天然記念物に指定されています。このアポイ岳には多数の珍しい植物が繁殖しており、ヒダカソウ・エゾコウゾリナなどの様似固有の植物もいくつか発見されており、「アポイ」名のついた学名・和名の植物もあります。また、このアポイ岳周辺でかんらん（橄欖）岩という珍しい岩石が多数見られ、地質的にも珍しい特質があることから、登山客や高山植物や岩石・地質の研究者が毎年多数訪れます。標高も低いので小学生も遠足で登ったりします。

様似のシンボルと言えるこの山についてもアイヌの伝説が残っています。かつて、この辺一帯で鹿がまったくとれず、そこで村人たちは話し合って現在のアポイ岳の頂上まで登り、そこに祭壇を設け、刀を飾り、供物を捧げ、草を集めて大きな火を焚いて神に祈り、鹿の豊猟を祈ったということです。その結果人間の願いが神に通じ、鹿がとれるようになり食料に困らなくなったとのことです。そこでこの山をアポイヌプリと呼ぶようになったとのことです（岡本総吉さん伝承。これとは違う内容の伝説もあります）。このアポイは、アペオイの縮まったものらしく、分解するとアペ＝火、オ＝ある、イ＝ところ、となります。ヌプリは「山」の意味です。

この故事にちなみ、様似町主催による「アポイの火祭り」という行事が1972（昭和46）年にはじめられ現在も行われています。このアポイ岳の正式の名前はマッネシリ（マッネ＝雌の、シリ＝山）で、様似市街から見て左側にあるピンネシリ（雄の山）と対になっているそうです。なお、いろりのことをアペオイと呼ぶ地方が多いですが、様似ではアペソコッ（アペ＝火、ソ＝座、コッ＝くぼみ）と呼ぶのが普通のようです。

例題の解答　レッスン8　1. イチエン　ポロンノ　クルル　icen poronno ku=kor　2. ウセウ　ポロンノ　ウウ　usew ponno ku=ku

例　文

1　スマ　　アン。

suma　　an.

石　　(1個)ある　　**(石が(一つ)ある。)**

2　スマ　　オカイ。

suma　　okay.

石　　(2個以上)ある　　**(石が(二つ以上)ある。)**

単　語

アイヌ語		日本語訳
アン	an	(一つ・一人)いる、ある。
オカイ	okay	(二つ・二人以上)いる、ある。
スマ	suma	石。

言葉の解説

アイヌ語は日本語に非常に近い言葉ですが、日本語にはない現象もあります。そのうちの一つが動詞の単数と複数の区別です。

日本語で「魚がいる」と言うだけでは、1匹だけなのか、それとも2匹以上いるのか分かりませんが、アイヌ語ではアンとオカイを使い分けて単数なのか複数なのか区別して表現します。

例えば家が1軒ならばチセ　アンで、家が2軒以上ならチセ　オカイとなります。また数ははっきり分からず、漠然ともかく誰かがいる、何かある、という時は、単数形のアンを使い、明らかに2人・2個以上存在する時はオカイを使うようです。

このアン／オカイ以外の、数によって言い方が変わるものを挙げます。

オマン	oman	パイェ	paye	行く
エク	ek	アルキ	arki	来る
アフン	ahun	アフプ	ahup	入る
ソイネ	soyne	ソイェンパ	soyenpa	外に出る
サン	san	サプ	sap	(前・浜に)出る、(川などを)下がる
ホプニ	hopuni	ホプンパ	hopunpa	起きる、(鳥などが)飛び立つ
ホシピ	hosipi	ホシッパ	hosippa	戻る

しかし、この単数・複数の区別はつねにあるのではなく、いくつかのよく出てくる言葉で使い分けるのです。

たとえばシノッ《遊ぶ》という言葉は、特に一人の時と二人以上の時とどちらも同じ言葉で表現します。人数によって言葉を言い分けるということはありません。

また、日本語では「あそこに机がいます」などと言ったり、「川に魚がある」と言ったりすると奇妙ですね。日本語では生き物だと「いる」、物だと「ある」と言い分けるのが普通ですが、アイヌ語ではどちらも同じくアン／オカイです。

そういった違いがアイヌ語と日本語とで時々あるので注意してください。

前回習った「～　カネ　アン(しつつある)」の文章も複数の場合は「～　カネ　オカイ」になります。

注意すべき発音

スマは「マ」の方を高く発音するので注意してください。

スマ　ではなく、　スマ　が正しい発音です。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　鹿が(1匹)います。　(　　)(　　)。

アン	an	(一つ・一人)いる、ある
ユク	yuk	鹿

2　人がたくさんいます。　(　　)(　　)(　　)。

アイヌ	aynu	人
オカイ	okay	(二つ・二人以上)いる、ある
ポロンノ	poronno	たくさん。

様似とアイヌ民族　— イマニッ(ローソク岩)とオソルコッ(尻もち跡) —

様似西部の鵜苦と西町の間に塩釜トンネルというトンネルがあります。そのトンネルの鵜苦側(西側)のところの海の中に10メートルはあろうかという大きな岩があります。この岩は先が細くなっているので、現在ローソク岩と呼ばれていますが、もともとはアイヌの伝説にちなんだ岩です。

昔、神様(アイヌラックル)が、お腹がすいたので大きなクジラをつまみあげ、蓬の串に刺して焼いたそうです。ところがクジラを焼いている途中で串が折れてしまい、神様はびっくりして尻餅をついたのだそうです。

そしてその焼け折れた串が岩になって今も残っているわけです。それをイマニッ(イ＝それ、マ＝焼く、ニッ＝串。焼き串のこと)と呼び、神様が尻餅をついたあとは巨大な窪地となって今も残っています。それをオソルコッ(オショロコッ)と言います(オソル＝お尻、コッ＝くぼみ・跡)。

この話に似た言い伝えは各地に残っています。

例題の解答　レッスン9　1. シタ　マ　カネ　アン　sita ma kane an　2. ウナルペ　シト　カル　カネ　アン　unarpe sito kar kane an

LESSON 11

「AはBだ」の言い方

例　文

1　タパンペ　プクサ　ネ。
tapanpe　pukusa　ne.
これ　ギョウジャニンニク　だ　（これはギョウジャニンニクだ。）

2　トオンペ　カンガルー　ネ。
toonpe　KANGAROO　ne.
あれ　カンガルー　だ　（あれはカンガルーだ。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
カンガルー	KANGAROO	カンガルー。　※日本語に入った外来語をそのまま使っています。
タパンペ	tapanpe	これ。
トオンペ	toonpe	あれ。
ネ	ne	だ、である。
プクサ	pukusa	ギョウジャニンニク、キトビロ。

言葉の解説

アイヌ語では「AはBだ」と言う時、「ネ」という言葉を使います。これはよく使うのでぜひ覚えてください。

この課の例文では「A」の部分がそれぞれタパンペ・トオンペになっていますが、この「A」の部分には当然さまざまな言葉が入り得ます。

たとえば「クコル　アチャポ　裁判官　ネ（私のおじは裁判官だ）」と言ったならば「クコル　アチャポ」がAにあたり、「裁判官」がBにあたります。

また、たとえば「タパンペ　ヌマン　クホㇰ　携帯電話　ネ（これは、昨日私が買った携帯電話だ）」と言うならば、「タパンペ」がAにあたり、「クホㇰ　携帯電話」がBにあたります。

注意すべき発音

タパンペ・プクサ・トオンペなどのアクセントに気を付けてください。

タパンペ　**プクサ**　**トオンペ**　にならないようにしてください。

また、トオンペは「トーンペ」のように発音しないよう気を付けてください。ト・オンペのように、トとオを切って発音するような気持ちで読んでください。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　これは私の学校だ。（　　）（　　）（　　）（　　）。

カッコ　kakko　学校
ネ　ne　だ、である
タパンペ　tapanpe　これ
クコル　ku=kor　私の

2　あれは熊だ。（　　）（　　）（　　）。

キムンカムイ　kimunkamuy　熊
ネ　ne　だ、である
トオンペ　toonpe　あれ

MEMO

様似とアイヌ民族　― ウトゥマンペッ（鵜苦川）―

様似町の一番西の端に「鵜苦」という地区があります。住民の大部分は漁師さんです。

この鵜苦地区の西の端の方に鵜苦川というあまり大きくない川があり、それを越えると浦河町幌別です。

この鵜苦川のアイヌ語名はウトゥマンペッで、分解するとウトゥマㇺ（抱き合う）・ペッ（川）となります。これは、鵜苦川と浦河側にある幌別川の古川がかつて河口付近で合流していたことから抱き合っていると表現したものと思われます。鵜苦という地名はそのウトゥマンペッから来ていると言われています。

この鵜苦地区にワッカクナイという沢があります。かつて水道が普及する前の時代、この地域の人たちはこの沢の水を飲んでいたそうです。ワッカは水、クは飲む、ナイは沢の意味です。

この沢については、国造りをしたアイヌラックルという神様が北海道各地を歩きながらあちこちの水を飲んでみたが、この鵜苦のワッカクナイの水ほどうまい水はなかったとほめたたえたという言い伝えが残っています。

ちなみに、古い文献にはこの沢の名前は、ワッカエクナイと書かれており、そちらの方がより古い名前だっ

例題の解答　レッスン10　1. エㇷ゚　アㇲ　yuk an　2. アイヌ　ポロンノ　チカイ　aynu poronno okay

例　文

1　タント　アナㇰ　リㇼ　ユㇷ゚ケ。
tanto　anak　rir　yupke.
今日　は　波　荒い　（今日は波が荒い（時化だ）。）

2　タン　コタン　アナㇰネ　ソンノ　フシコ。
tan　kotan　anakne　sonno　husko.
この　村　は　とても　古い
（この村はとても古い。）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アナㇰ	anak	〜は。
アナㇰネ	anakne	〜は。
コタン	kotan	村、集落。
ソンノ	sonno	本当に、誠に、とても。
タン	tan	この。
タント	tanto	今日。
フシコ	husko	古い。
ユㇷ゚ケ	yupke	荒い、強い、きつい。
リㇼ	rir	波。

言葉の解説

アナㇰ・アナㇰネ同じ意味で使われる言葉で、日本語の「〜は」に相当する言葉でよく使われます。

このアナク・アナㇰネがなくても文章の意味は通じますが、何かを強調したり話題にする時に使います。場合によっては「〜こそ」「〜と言えば」「〜ならば」と訳せることもあります。

１つめの例文についてですが、アナㇰを抜いて「タント　リㇼ　ユㇷ゚ケ」と言ってもそれほど大きく意味は変わりません。「今日、時化だ」と訳せますし、「今日は時化だ」とも訳せます。

ただ、アナㇰを使うと「タント《今日》」が強調され、たとえば昨日は凪（＝海がおだやか）だったが、今日は時化だ、というようなニュアンスになります。

なお、あまり頻度は高くありませんが、同じ意味で アナクン anakun という言葉も時々使われます。

注意すべき発音

アナㇰ・アナㇰネの「ㇰ」に注意してください。アナク・アナクネなどとはっきり「ㇰ」を発音してはいけません。

また、今まで何度も練習しましたが、ユㇷ゚ケの「ㇷ゚」もなかなか難しい発音なので気を付けてください。

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　氷は冷たい。（　　）（　　）（　　）。

ヤム	yam	冷たい
コンル	konru	氷
アナㇰ	anak	〜は

2　この道はいい（=歩きやすい）。（　　）（　　）（　　）（　　）。

ル	ru	道
ピリカ	pirka	よい
アナㇰネ	anakne	〜は
タン	tan	この

様似とアイヌ民族　— アフンチャル（あの世の入り口）—

北海道各地にあの世の入り口と呼ばれる穴・洞窟がありますが、様似にも同様のものがあります。そのような穴の中に入ったりのぞいたりすることは厳しく戒められていました。うっかりそのような穴に入ってしまった人が、死んであの世に行ってしまいこの世にいない人に会ってきた話や、その穴の付近で、死んでこの世にいないはずの人の姿を見たというような話が伝説として残っています。

様似にはそのような穴が何ヶ所かにあったようですが、現在、はっきり場所が確認できているものは、アフンチャル（またはアフンルチャル）と呼ばれるもので、これは少々珍しく海の中にあります。イマニッ（ローソク岩）のある塩釜トンネルの海側のところにあります。

アフンは「入る」、チャル＝「口」です（アフンルチャルの「ル」は「道」の意味です）。あの世に入っていく（道の）入り口という意味だと思われます。その他、ポルチャル、アフンポルとも言います（ポル＝洞窟）。

この海中の穴を陸地から目で確認することはできませんが、この穴の付近は潮の流れが急で泳いだりするのは危険であると言われてますし、この穴の付近の海草や魚、貝などはあの世から来たものなのでとってはいけないなどと昔の人は戒めたそうです。また、観音山の中腹にもそのような穴があったそうですが、その後工事などで地形が変わり穴がふさがってしまっているようです。

なお、様似を含む日高東部から道東にかけては「口」のことをチャル；チャロと言いますが、日高西部・胆振などその他の地方ではパル；パロと言います。このため口のことをパル；パロと呼ぶ地方では、この入り口をアフンパルと言います。

例題の解答　レンスウ11　1. タパンペ クロル カッコ ネ tapanpe ku=kor kakko ne
2. トゥンペ キムンカムイ ネ toonpe kimunkamuy ne

例　文

1　テエタ　等澍院　アナクネ　オコタヌシ　タ　アン。
teeta　TOUZYUIN　anakne　Okotanusi　ta　an.
昔　等澍院　は　オコタヌシ　に　あった
（昔、等澍院はオコタヌシにあった。）

2　ペッ　オシケ　タ　チエプ　オカイ。
pet　oske　ta　cep　okay.
川　中　に　魚　いる
（川の中に魚がいる）

単　語

アイヌ語		日本語訳
アナクネ	anakne	〜は。
アン	an	ある。
オカイ	okay	（複数）いる。
オコタヌシ	Okotanusi	地名。
オシケ	oske	中。
タ	ta	〜に。
チェプ	cep	魚。
テエタ	teeta	昔、以前。
等澍院	TOUZYUIN	寺の名前。
ペッ	pet	川。

言葉の解説

日本語の「〜に」に相当する言葉はいくつかありますが、そのうち「タ」はよく使われます。このタは場所を示す時によく使います。いくつか文例を載せます。

例　クコル　アチャ　チセ　ソイ　タ　アン。　**私の父は家の外にいる。**
ku=kor　aca　cise　soy　ta　an.

ニ　カ　タ　チカプ　レウ。　**木の上に鳥が止まる。**
ni　ka　ta　cikap　rew.

クコル　ウナルペ　サッポロ　タ　アン。　**私のおばは札幌にいます。**
ku=kor　unarpe　Satporo　ta　an.

注意すべき発音

テエタは「テータ」というような発音にならないように気を付けてください。テ・エ・タと最初のテと次のエを区切るように意識的に発音してください。アクセントは以下のようになります。

テ エタ　または　テ エ タ

練習問題　単語を並び換えてアイヌ語の文章を作ってください。

1　浜にコンブがあがる。（　　）（　　）（　　）（　　）。

ヤン	yan	あがる	タ	ta	〜に
ピシ	pis	浜	コンプ	kompu	コンブ

2　山の上に大きな砦がある。（　　）（　　）（　　）（　　）（　　）（　　）。

チャシ	casi	砦	タ	ta	〜に
ポロ	poro	大きい	カ	ka	上
アン	an	ある	ヌプリ	nupuri	山

様似とアイヌ民族　— オコタヌシと等澍院（とうじゅいん） —

オコタヌシというのは現在の様似小学校のあるあたり（栄町）の地名で、分解するとオ＝河口（川尻）、コタン＝村、ウシ＝あるところ、となります。様似川の河口に比較的近いので、この「河口」とは様似川の河口を指しているようです（「山裾」という解釈もあります）。

かつてこのあたりにアイヌがたくさん住んでいてコタンを形成していたそうですが、大水などの災害などをきっかけに様似川のより上流の地域（岡田）に移動したとのことです。

また、1806（文化8）年に創建された天台宗の寺院・等澍院もかつてこのオコタヌシにありました。この等澍院は、伊達市の善光寺、厚岸町の国泰寺とならんで、いわゆる蝦夷三官寺の一つです。

等澍院は最初、オコタヌシに創建されましたが、熊による被害などのため現在の様似町本町に移転し、その後1885（明治18）年、一度廃寺となりましたが、1897（明治30）年に再興され、現在に至ります。

この等澍院の住職が書きとめた寺の記録などの古文書（等澍院文書）が昨年、国の重要文化財に指定されました。

蝦夷三官寺は、北海道に移住した和人の信仰の拠点、キリスト教の影響の抑止だけでなく、アイヌへの布教の目的もあったと言われます。確かに善光寺では布教のための子引歌をアイヌ語に訳したりするなど、アイヌへの布教を狙っていた形跡があります。しかし、等澍院に関しては積極的にアイヌを対象に布教活動を行った事実は今のところ確認できていません。しかし、寺の創建時に行われた勧請（かんじょう）供養に地元のアイヌが招かれたという記録もあります。その他、等澍院に地元のアイヌも出入りしていたことを示唆する記録も残っています。

この等澍院とアイヌとの関わりについては今後の研究によってさらなる事実が分かるかもしれません。

例題の解答　レッスン12　1. コンル　アナクネ　ヤム　konru anak yam
2. タン　ル　アナクネ　ピリカ　tan ru anakne pirka

単語表

各レッスンの例文に掲載した単語です。Lの後の数字は掲載したレッスン番号です。

アシ	as	自動詞	(雨や雪が)降る。(風が)吹く。 (音が)鳴る、聞こえる。 L2、L3
アチャ	aca	名詞	お父さん。 L9
アチャポ	acapo	名詞	おじさん。 L1
アナク	anak	副助詞	～は。 L12
アナクネ	anakne	副助詞	～は。 L12、L13
アプカシ	apkas	自動詞	歩く。 L7
アルカ	arka	自動詞	痛い、痛む。 L5
アン	an	自動詞	(一つ・一人)ある、いる。 L9、L10、L13
イタンキ	itanki	名詞	お椀。 L4
イルシカ	iruska	自動詞	怒る。 L6
ウクラン	ukuran	副詞	ゆうべ、昨晩。 L3
ウナルペ	unarpe	名詞	おばさん。 L4、L6
ウパシ	upas	名詞	雪。 L1
エ	e	他動詞	～を食べる。 L8
エエン	een	自動詞	鋭い。 L6
エク	ek	自動詞	来る。 L1
エヤプキリ	eyapkir	他動詞	～を投げる。 L4
オカイ	okay	自動詞	(二つ・二人以上)ある、いる。 L10、L13
オコタヌシ	Okotanusi	固有名詞	地名。現在の様似小学校付近(栄町)。 L13
オシケ	oske	位置名詞	中。 L13
オテルケ	oterke	他動詞	～を踏む。 L4
カネ	kane	接続助詞	～しつつ、しながら。 L9
カムイフム	kamuyhum	名詞	雷。カムイ＝神、フム＝音。 L3
ク	ku=	人称接辞	私の、私が。 L5、L6、L7、L8
ク	ku	他動詞	～を飲む。 L8
コタン	kotan	名詞	村、集落。 L12
コル	kor	他動詞	～を持つ。 L6
シノッ	sinot	自動詞	遊ぶ。 L7
スマ	suma	名詞	石。 L4、L10
ソンノ	sonno	副詞	本当に、誠に、とても。 L12
タ	ta	格助詞	～に。 L13
タネ	tane	副詞	今。 L2
タパンペ	tapanpe	名詞	これ。 L11
タン	tan	連体詞	この。 L12
タント	tanto	副詞	今日。 L2、L12
タンネ	tanne	自動詞	長い。 L5
チエプ	cep	名詞	魚。 L13
チキリ	cikiri	名詞	足。 L5
テエタ	teeta	副詞	昔、以前。 L13
トオンペ	toonpe	名詞	あれ。 L11
ヌカル	nukar	他動詞	～を見る。 L9
ヌマン	numan	副詞	昨日。 L3、L8

ネ	ne	デアル動詞	だ、である。 L11
パケ	pake	名詞	頭。 L5
ハポ	hapo	名詞	お母さん。 L9
プクサ	pukusa	名詞	ギョウジャニンニク、キトビロ。 L11
フシコ	husko	自動詞	古い。 L12
ヘカチ	hekaci	名詞	少年、男の子。 L4
ペッ	pet	名詞	川。 L13
ポロンノ	poronno	副詞	たくさん。 L7
マキリ	makiri	名詞	小刀。 L6
メアン	mean	完全動詞	寒い。 L2
モンライケ	monrayke	自動詞	働く。 L9
ユプケ	yupke	自動詞	荒い、強い、きつい。 L12
リリ	rir	名詞	波。 L12
ル	ru	自動詞	解ける。 L1
ルヤンペ	ruyanpe	名詞	雨。 L3
レラ	rera	名詞	風。 L2
ワッカ	wakka	名詞	水。 L8

外来語

カンガルー	KANGAROO	名詞	カンガルー。 L11
ハンバーガー	HAMBURGER	名詞	ハンバーガー。 L8
映画	EIGA	名詞	映画。 L9
等澍院	TOUZYUIN	固有名詞	寺の名前。 L13

例題の解答 レッスン12　1. ピシ タ コンプ ヤン pis ta komp yan
2. ヌプリ カ タ ポロ チャシ アン nupuri ka ta poro casi an